

医療法人恵生会 南浜病院

fiscal year 2021 Annual Report



ご挨拶

「コロナ陽性が4名、疑陽性が10名出ました」看護当直から報告を受けたのは、2021年8月20日の当直中でした。8月18日に院内一人目の発生があって覚悟はしていましたが、想定を超える数字に動揺を隠しきれませんでした。しかし、看護当直や駆けつけたICT師長らが迅速に動いてくれて、私も何とか平静を取り戻すことができました。発生病棟でも、師長と主任が機動力を発揮して、その日のうちにシフトを組みなおしてくれました。

翌日は土曜日でしたが、院長はじめ各部署長が出勤し緊急のZOOM会議を行いました。多くのことが手探りの状態でしたが、院長のリーダーシップのもと方針を決定することができました。その後、保健所の指示のもとPCR検査を繰り返し、収束宣言したのは最初の発生から19日目の9月6日でした（結果的には、最初の疑陽性はすべて陰性で、患者さんに感染が広がることはありませんでした）。

しかし、その間、現場のスタッフは自宅にも帰れず、誰が感染しているかわからない極限の状態で、限られた人員で勤務してくれました。業務で感染したり、濃厚接触になったスタッフも、どのような思いで隔離期間を過ごしたかと思うと、申し訳ない気持ちでいっぱいになります。不眠不休で対応してくれたICT、院長、事務部長、看護部長、師長、課長たちに、この紙面を借りて感謝したいと思います。他にも、バックアップしてくれた医療相談室、外来部門・・・紙面の関係で全員をあげることができませんが、病院外事業所も含め全職員のおかげで危機を乗り越えることができました。

巻頭文としてふさわしい内容かわかりませんが、2021年度を振り返り、当法人の全職員の力が発揮された出来事だったと思います。保健所をはじめ、県の調整本部の皆様、行政機関、公的病院の先生方、近隣の病院の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、多くのご指導ご支援を賜り、本当にありがとうございました。

法人に関する大きな出来事として、2022年1月22日、第二代理事長 鈴木保穂が享年108歳で永眠しました。鈴木保穂は1955年開院時の初代病院長でした。当時59床で始めた病院を1973年には363床まで増床させ、1997年には第二代理事長に就任しました。2009年からは会長に就任し、臨床の一線からは退きましたが、晩年も車いすでデイケアに顔を出し、古くからの患者さんやご家族に「会長先生」と声をかけられていました。職員の助けもあり、亡くなる前の週まで病院に来ていましたが、最期まで病院とともにあることができて幸せだったと思います。葬儀はコロナの状況下のため、親族のみで行いましたが、いつもの出勤時のスーツ姿で旅立ちました。今も理事長室にいて、法人を見守っているように感じます。

折しも、2022年診療報酬改定では、精神科救急急性期医療入院料が大幅に改定されました。厳しい時代の生き残りをかけて当法人も変わることを余儀なくされていますが、バトンを引き継ぎ、力不足ながら精一杯頑張っていきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

令和4年6月

医療法人恵生会

理事長 澁谷 雅子



目次

p.005

概要

基本理念	006
沿革	007
施設概要	008
組織図	010
役職者	011
要員配置表	012

p.013

実績報告

医局	014
薬剤科	016
放射線科	018
臨床検査科	020
栄養科	022
心理室	023
医療相談室	024
作業療法科	026

p.029

実績報告

看護部	030
外来	032
2階病棟	033
3階病棟	035
4階病棟	037
5階病棟	038
南病棟	039
中央材料室	041

p.043

実績報告

事務部	044
総務課	045
医事課	047
施設管理室	048

p.049

実績報告

福祉事業所	
障害福祉サービス事業所 いなほ園	050
訪問看護ステーション	
訪問看護ステーション めぐみ	052
訪問看護ステーション アルモ	053
訪問看護ステーション セレナ	054



p.055

委員会活動報告

教育委員会	056
広報委員会	059
情報委員会	063
接遇向上委員会	064
医療観察法運営委員会	066
医療安全対策委員会	068
リスクマネージャー委員会	070
院内感染防止対策委員会	073
ICT委員会	076
褥瘡対策委員会	078
NST委員会	080
行動制限最小化委員会	082
衛生委員会	084
薬事委員会	085
病院食検討委員会	086
心理社会療法委員会	087
業務改善委員会	089
未収金対策委員会	090
クロザピン運用委員会	091

p.093

院内研究発表・ 年間研修・年間行事

院内研究発表	094
ケースレポート発表	094
年間研修	095
年間行事	096

p.097

病院統計

病院統計	098
------	-----

p.117

クラブ活動報告

活動報告	118
------	-----



令和3年度年報の 発刊にあたって

令和3年度の年報をお届けします。

当年度も前年度から続く新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は未だ終息の気配を見せず、次々と感染拡大の波が押し寄せてきました。前年の年報で申し上げましたが、8月には入院時のスクリーニング検査で新型コロナウイルスの陽性が判明した方がおられ、当該病棟のスクリーニングでさらに職員4名の陽性が確認されました。入院後陽性が判明した方は他院へ転院、陽性となった職員は自宅療養とし、院内の対策を徹底しつつ繰り返しスクリーニングを行った結果、その後は新たな陽性者は認めず、陽性者も無症状で療養期間を終えました。陽性となった入院者を受け入れてくださった病院をはじめ、ご指導いただいた保健所、対策に協力いただいた入院者およびご家族の方々、対策に尽力いただいた職員など皆様に感謝いたします。

精神科病院においては、病状のために感染対策に十分な協力を頂けない方も多く居られる上に、重篤な精神疾患は重症化のリスクファクターになる可能性が指摘されております。特に近年は認知症の行動・心理症状による入院が増加しており、感染対策と重症化リスクの両面で困難さが増しております。精神科医療においては、対人交流や集団精神活動を利用した治療も重要であり、COVID-19流行下における治療に苦慮しております。未だ流行終息の見通しが立たない状況ではありますが、感染対策と治療効果の両立を図りながら、精神科医療を必要とする方の迅速な受け入れに努めてまいりたいと思います。

当院創立の昭和30年から平成14年まで初代院長として、そしてその後は理事長、会長として当院を牽引されてきた鈴木保穂先生がご逝去されました。

私は平成8年に新潟大学医学部精神医学教室に入局しましたが、当時すでに鈴木先生は同窓会の長老格でいらっしゃいました。小柄で物静かな印象でしたが、ご挨拶に伺うと私のような若輩者にも折り目正しく丁寧に接して頂き、温かいお言葉をかけていただきました。今思えば「病院に関わる人すべての幸せを願う」という病院の理念をそのまま体現されたような、やさしさと謙虚さを持つ先生だったのではないかと思います。

昭和30年と言えば、未だ向精神薬の導入もなく、設備、施設も乏しい時代であったと思います。そのような中、病に苦しむ方たちのために病院を開設し、治療にご尽力なされた鈴木先生のご苦勞がしのべれます。先生が長年にわたり育て守り続けた病院の発展に微力を尽くしたいと思います。

令和4年9月

医療法人恵生会 南浜病院

院長 金子尚史